

2021年
新教会献堂
10周年
記念号



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)



笹丘小教区創立 60周年



笹丘小教区創立 60 周年のお祝い申し上げます。

60 周年の記念の年に当たり、まず感謝を表したいのは、今日に至るまで笹丘小教区民と共に歩んで下さった神様に対してです。以前、この教会の境内に、御心のイエス様の御像が置かれていました。その台座には、「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい。休ませてあげよう」と書かれていました。その御言葉の通り、60 年間、私達と共にいて、私達を慰め励まし続けて下さった、主なる神様に、まず感謝を捧げたいと思います。

次に、60 年前、この土地を取得し、この地に、教会を建設して下さったアウグスチノ会の先輩たちに感謝を捧げます。戦後、アメリカのヴィラノバ管区の会員たちが、初めに教会を建てたのは、長崎の城山においてでありました。それに続いて、神学生の養成の為に、神学校がある福岡に、修道院と教会が建てられる事となりました。この笹丘の地は、その時の候補地の一つで、他に六本松にも、候補地があったと聞いております。この場所を取得する前、見学にいらした、私達の先輩トマス・パーセル師が、田町節子さんと会われたという事を、お二人から伺った事があります。田町さんは、パーセル師に、「ここに教会が建てば良いですね」と仰ったと、御自分で晩年、その時の事を回想しながら、何度も話して下さいました。

その後、教会の為、見えない所で奉仕して下さい、沢山の方々に感謝を捧げます。前主任司祭トマス・ドワイヤ師は、「大切な事は目に見えないのです」と教えて下さっていたと聞いております。本当に、その通りです。目に見えない所で、コツコツ、奉仕して下さい、方々に、心より敬意を表します。

その延長線上で、20 年前、新教会建設計画が持ち上がり、10 年間、準備してこられた皆さん、新教会建設後、教会建設の債務返済に協力して下さい、方々、また目に見えない所で、教会をバックアップして来て下さった方々に敬意を表します。日本の教会は、これまで宣教師が建設し、私達は、おんぶに抱っこされながら、信仰生活を送って来たという現実がある事を否認しません。そのような教会の歴史の中で、私達が、修道会や他の教会の兄弟姉妹たちの協力を頂きながらも、この教会を建設したという事には、大きな意義があります。私達は、現在の教会の活動、つまり神の国の建設作業を継続して参りましょう。感謝の念を持って過去を振り返り、情熱を持って現在を生き、希望を持って将来を見つめながら。



SASAOKA CHURCH-TWO FACES BUT ONE HEART

マイケル・ヒルデン神父

およそ40年前1982年の1月に私はこの地に初めて遣わされました。聖アウグスチノの教会は当時東田島教会と呼ばれていて、油山観光道路はまだ梅光園エリアは工事が始まっておらず、マンションなどもなかったの、教会の高い白い塔に立てられていたイエスの御心の像は樋井川に至る全ての近隣から見ることが出来ました。今の幼稚園の園庭あたりは水はけの悪い草むらで、夜通し蛙の合唱が聞こえたものでした。モーリス・マホニ神父は若くエネルギッシュな司祭で、トマス・ドワイヤ神父は若い園長先生でした。私の仕事はアウグスチノ修道会に入ることになる神学生たちの養成担当者でした。若き神学生だった今田昌樹、平野哲也、両神学生と共に過ごせたことは素晴らしい時間でした。彼らは奉獻生活に入るため、イエスの足跡に従う道を進んでいました。森緑さんのことも深い感謝とともに思い出します。彼女はいつも私たちのために栄養たっぷりの美味しい食事を作ってくださいました。また、若き神学生たちの信仰の旅路の最初の数年間を真摯に支えてくださった教区のたくさんの方々の友情とお祈りにも感謝いたします。

1987年春に笹丘教会を離れた後、2017年3月、30年経ってまた私はこの地に戻ってきて、今度は幼稚園の園長となりました。私が知っていたすべてのものが(教会、修道院、信徒会館、以前の幼稚園)完全になくなっていました。あの高くて白い教会の塔さえも、道路近くに数メートル移動されたようでした。教区の皆さんの惜しみない支援のおかげで、輝くばかりに美しい新しい教会、新しい信徒会館と修道院が建てられていました。私の記憶にある以前の笹丘教会は何ひとつ残っていませんでした。ただひとつを除いて。それは、御聖櫃に在しますキリストの御体です。時が経ち、以前の建物は消え去りました。しかし、最も大事なことは御聖体の中のイエス様がそのまま変わらずそこにいらっしゃるということです。

私たちと共にあるイエス様の愛に見守られながら、笹丘小教区60周年を記念するこの年に笹丘教会に再び奉仕できますことを光栄に思います。祈りと信仰に満ちた笹丘の信徒の皆さんの喜びに溢れた温かさがゆたかに増し続けますように。私たちが旅を続ける道程で、新しい御聖堂のステンドグラスに美しく描かれている如く、母なるマリア様のマントのお守りのもとで豊かなお恵みがありますように。共に、ひとつの心で、感謝をささげましょう。天のお父様は、愛する笹丘の家族の皆さんをこれからもずっと祝福して下さるのでありますから。



献堂 10 周年を記念して

県境を超えた移動が難しくなって一年半がたちますが、皆様お元気でしょうか。この原稿を書きながら 10 年前の献堂式の日を懐かしく思い出しています。

実に私が笹丘教会に派遣されたのは 20 年前のこと。助祭として一か月半を過ごしたのちに司祭叙階。その後一年という短い間でしたが、司祭としての最初の年を笹丘で過ごしました。ドワイヤ神父様のもとで皆様と出会い、たくさんの楽しい思い出を作ることができました。

皆様の多大なる努力、協力のもとで 2011 年に新聖堂が完成し、はや 10 年を迎えています。教会は単に建物をさすのではなく、神様が集めてくださった民の集いなのだとはたびたび教えられてきましたが、まさにこの「集まる」ための大切な時間・空間が奪われるという大きな試練の中にあって、今私たちは日ごとに「なぜ」と神様に問い続けています。しかし「なぜ」と神に問うこと自体が深い信仰行為なのだとは聖書は教えてくれます。いつかその答えを見出せるよう祈りつつ過ごしたいと思います。

葛西教会 トマス小崎 柴田 弘之神父



笹丘教会新聖堂献堂 10 周年おめでとうございます。大神学校から荷物と一緒に笹丘に戻り、新しい聖堂、新しい修道院での生活が始まったのがついこの間のことのように思い出されます。新聖堂建設のための積み立

て、そしてバザー。今は天国からご覧になっておられることでしょう、白壁勝典さんをはじめ、女性の会の活動を支えた皆さんなど、実に多くの方々が長年ささげられた汗と涙と祈りの結晶が今の聖堂・信徒会館ですね。ご自分の専門的知識と経験を惜しみなく分かち合ってくれた江下さんと共に大きな役割を担って下さった建設委員の皆さんのご苦勞はもとより、精神的支柱としてのドワイヤ神父様の働きを決して忘れることはできませんし、まさに難しい時期に主任司祭としてかじ取りの役割を担われた遠山神父様の働きもしかし。私は「おまけ」的な働きしかできませんでしたが、皆さんと歩みを共にすることができたのはかけがえのない思い出です。すべてを導いて下さった神さまに感謝すると共に、これからも長きにわたって笹丘の聖堂や信徒会館、また修道院が聖心になつた教会共同体を育み続けるために、主のよき道具として立派にその役割を果たし続けることを心から願っています。

長崎城山教会 トマス 今田昌樹神父

400字以内で、私の近況・笹丘教会の思い出・信徒へのメッセージを書き記すことはできませんでしたが、頑張りました。(山野神父様より)



「近況と笹丘教会の思い出」

笹丘教会の皆さま、お久しぶりです。私は、笹丘修道院から名古屋の聖モニカ修道院へ6年前に移動になり、現在、聖モニカ修道院の院長・港教会の主任司祭の務めを修道会から任されています。名古屋教区では、カリタス福祉委員会(カリタスジャパン名古屋代表司祭)・カトリック障害者連絡会協力司祭・難民移住移動者委員会のステラマリス(外国船員司牧)全国コアメンバー・男性シェルター世話係・NPO法人フィリピン幼稚園6歳児に国語と算数を教える担当などを司教様から任されて頑張っています。

笹丘教会では、私は2年間、みなさまにお世話になりました。思い出としては、聖アウグスティヌスの修道会が担当する教会として、やはり、アットホームなイメージがあります。これは、長崎・福岡・名古屋・東京の4か所のうちの修道会が担当する教会の信者さんに共通することです。私が、修道会の用事で笹丘教会へ訪れても、いつも信徒のみなさまは、昨日まで一緒にいたかのように笑顔で迎えて下さるので、とても安らぎを感じています。

アントニオ 山野聖 O.S.A.



笹丘教会の皆さん、献堂10周年おめでとうございます!

この10年の間に、わたしはこの聖堂でふたつの奇跡を体験しました。それは、ここで初誓願式と荘厳誓願式を行わせていただいたことです。皆さんとともに祝ったそのふたつの時は、あまりにも大きなお恵みで、今思い出してもあれは夢だったのかもしれない、と思うほどです。皆さんを通していただいた、いつくしみ深い神の限りないお恵みを、この先も度々、心新たに味わうことでしよう。

聖堂は、キリストが、わたしたちを神への愛と人への愛に導き、その愛を守り育てるためのおき場です。わたしもここで、イエスさまと皆さんの愛に育ていただきました。どうか、まことの愛の交わりに招いてくださる父と子と聖霊が、この聖堂に多くの人を招き、この聖堂に集う皆さんの間で、これからも数多くの奇跡を行ってくださいますように。

「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである」(使徒言行録2:47)。

城山教会 ヨハネ 松尾 太 O.S.A



アベイヤ司教様 笹丘教会公式訪問

2021年10月16日(土) 17日(日)



コロナ禍で2回延期となったご訪問がようやく実現して、信者一同安堵と幸福感に満たされた良き日となりました。また更に良きことに大学時代笹丘教会に通われていた大分教区の幸真宏新助祭がミサに参加されました。この素晴らしい姿での再会はこの上ない喜びでした。



ミサ開始前待機



入祭



献香



信者席により近い位置に立たれて力強いお声でのお説教 真剣に聞きました



聖変化



右から2番目幸助祭様



アベイヤ司教様をお迎えして

待ちに待ったアベイヤ司教様の笹丘教会公式訪問の日。

10時のミサに少々緊張しつつ玄関に向かうと、お写真や動画で拝見していたとおりのとびきりの笑顔で司教様が私たち信徒を迎えてくださいました。思わず「楽しみにお待ちしております」と話しかけてしまった私ですが、緊急事態宣言により何度も延期になったこのご訪問を、「やっと来られました!」と司教様ご自身が楽しみにしておられたご様子。

ミサの中では、マルコ福音書(「あなたがたの中で偉くなりたい者は」)について、これこそが神の国の価値観の中心であり、教会共同体に語られていること、奉仕するということだと。また、その後のお話の中では、私たち信者は過去に「感謝」し、今を「情熱」をもって生き、未来に「希望」を持つのが大切だ、と言われました。情熱は何歳になろうと持てる、言い換えれば「この信仰を持っていて良かった!」と心から思うことであり、それが宣教なのだ、と司教様も情熱的に語られ、元気をたくさんいただきました。また日本人は共同体の中で規則や規約を好むが、もっと自由に行動して良いし失敗や間違いを恐れなくて良いのでは、特に小教区はそれぞれが自分らしくいられる場所であってほしい、と勇気づけてくださいました。司教様がローマによばれて過ごした24年間に訪れた70か国で学んだことは、「一致」と「多様性」。言葉や肌の色や文化習慣が違って信じるものは一つ、世界中の信者が大きな家族なのだ、というお話も印象に残りました。

数年後に100周年を迎える福岡教区。それに向かう意味でも今回宣教司牧方針は司教や代表者が決めるのではなく、一人一人が自分に何ができるか考えて皆で決めてほしい、という宿題も出されてお話が終わりました。

小さな子供たちを含め数名の質問にも丁寧にお答えいただき、ときにユーモアを交えながら、終始よく通る明るい声で分かりやすく、我々日本人より流暢な日本語で話されるお話に、あっという間に時間がたっていました。ほかの教会では大阪弁も披露されたとのこと、それも伺ってみたい、ぜひまた訪問していただけたらと心から思いました。

感謝のうちに。

(4班 小さきテレジア 足立志麻)



17日 10時のミサ後

幸助祭様のご聖体拝領



ミサ後のお話、質問



教会学校のお友達が質問を用意して勇気をもって発言しました



メダル
教会学校のお友達の手作り



紙に質問を準備しているのを司教様は見逃しませんでした



信者と会話を大事にされる司教様



メダルは子供たちが折った折り鶴で囲まれていました福岡教区にある教会の数だけ折りました



17日朝7時半ミサ後

16 日夜 19 時ミサ



一人一人に語り掛けるように話
されました。

「一番偉くなりたい人は、主の杯を飲むことです」
夜の聖堂の中で深く印象に残るお言葉でした。

幸助祭様のご挨拶



閉祭



大学生時代の「幸君」の面影はあるものの、全く違って見えたのは、外国での6年間の苦労はもとより、やはり助祭叙階の秘跡の力によるものだと改めて感じずにはいられませんでした。(S)



19 時ミサ後



「皆で一致し、それぞれ同じ目標に向かって
歩んでゆきましょう」



聖体奉仕者 任命書授与 8月



ペトロ
牧山幸二さん



ヨゼフ
川原義広さん

聖体奉仕者の正式名称は「聖体授与の臨時の奉仕者」です。

司祭、助祭、祭壇奉仕者が不在の際に、あるいは病気、高齢、司牧上の務めの理由で聖体を授けることができない場合、また拝領者が大勢いるためにミサや他の祭儀が余りにも長引く場合、主任司祭の要請と指導に基づいて、臨時の奉仕者としてミサや他の典礼祭儀中の聖体授与、および病者に聖体を運んで授ける奉仕を行う。任期は3年、必要に応じて任期の更新を行うことができる。

更新は3年ごとで今回の任期は2024年7月31日までです。

— 参考 —

・新規の聖体奉仕者養成講座は次の内容の予定です。

講座は月一回、カテドラル大名町教会で約3時間行われます。

講師は神父様やシスターです。

1. 「キリストの教会と信徒の共通司祭職」
2. 「キリストとの交わり」
3. 「エウカリスティア」
4. 「キリストの体への奉仕（病者への配慮）」
5. 「聖体奉仕者の実践の心得」
6. 教区長による任命式

・任期の途中で2年を経過すると「練成会」があり、3年任期の満期が到来し任期を更新するときには主任司祭の推薦に基づき更新時練成会に参加し新たに、教区長の任命をいただくことになります。

8月27日 聖モニカ祭



8月28日 聖アウグスチヌスの記念日



朝ミサの参加メンバーでお祝いしました

遠山満神父様 60歳還暦のお誕生日でもありました
おめでとうございます!!

ワックスがけ・教会敷地内樹木選定 9月11日



ワックス掛けの流れ
1. 汚れとりふき掃除
2. 水気をふき取ります
3. 新しいワックスを塗布していきます



晴いボランティア
おやつと昼食準備



粗大ごみとなった
備品を解体して処分
しました

園舎との境目です
雑草取り、土が流れ
ないように堰とめをつ
くりました



役員さん方や以前から携わって下さっている山口さん、営繕ボランティアの皆さん、良き汗をかきました！

9時前からの作業
途中「水分補給の時間です～」の掛け声で休憩に入りました
作業再開、昼食をはさんで、2時過ぎに終わりました お疲れさまでした



けがをしては元も子もありません
慎重に木に上り選定をしました

感謝！！

9月23日 大分教会にて 助祭叙階式
ヤコフ・イグナチオ 幸 真宏(ゆき まさひろ)新助祭
おめでとうございます！！

新型コロナ感染予防のため制限はありましたが、叙階式は厳かによかったです。叙階後は助祭コースが福岡の神学校でありますのでまたお会いできる機会もあると思います。(大分教区広報担当高橋神父様より)

大分出身の幸真宏助祭は、大学時代(2011年～2015年)笹丘教会に通われ、多方面で活躍されました。その後2021年までスペインのピダソア国際神学院、ナバラ大学神学部で学ばれました。(詳細は大分教区報 こだま10月1日504号一面掲載)



按手



連願



聖書が手渡される

助祭叙階式の画像は、カトリック大分教会のウェブサイトを開き、「お知らせ(信者会の皆さまへ)」をクリック、「年間第26主日B年2021年9月26日」をクリックすればご覧になれます

笹丘教会では、10月1日初金ミサで助祭奉仕されました



ご聖体賛美式 幸助祭様
ご聖体を聖櫃にお返しするところ

スペインの「ことわざ」と信仰 2

3 班 ベルナルド・マリア・ビジャサンス

一文惜しみの百失い

Hombre avariento, por uno pierde ciento.

-パロスは、この諺の由来は聖書の羊飼いのたとえにあるという。筆者が調べて見ると、たしかにマタイの福音書(18:12-14)に“見失った羊のたとえ”があった。しかし、ここでは、“hombre avariento-欲深い人”とは全然関係のない話が語られる。百匹の羊のうち、一匹を見失った羊飼いが、九十九匹を野原に残して、一匹を見つけ出すまで捜した。そして、見つけたら非常に喜んだ。そこで、キリストはこう言われた、“悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。そこで、キリストはこう言われた、“一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある”諺とは、真逆のたとえであるが、真の意味は同じである。

— ことわざのほうは、目先のわずかな出費を惜しんで、後で大損する欲深い人の愚かさをたとえていっている。

日本のことわざも文字通り同じで、見出しの訳以外にも“一文おしみの百損”、“一文儲けの百遣い”、“小利を貪り大利を失う”、“安物買いの銭失い”などがある。

参考文献一覧

REFRANERO ESPAÑOL
スペインの諺辞典 (2)
新井藍子 (作者)
Bernardo Villasanz (編集)
福岡大学研究部論集 A4(8)2005
この作品から取った諺

ノート

パロス、コレアス、スパルビィ、イリバレン
スペイン人の諺の作者

ドン・キホーテスペインの小説
作者: Cervantes(セルバンテス)

*記載されているアルファベットはスペイン語です
— 次回につづく —



編集後記

10年前、教会献堂式のすぐ後に息子の洗礼を授けて頂きました。今思えば、新しい教会と共に子育てが始まっています。この10年を通して、それまで以上に自分の不甲斐なさ、惨めさをつくづく思い知らされる事となりました。同時に、神様の愛がどれほど忍耐強く、憐れみに満ち、慈しみ深いかを、主は私に示して下さいました。

結局のところ、人生とは絶え間ない自分自身(内面)との闘いだと思うのです。
『わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全なものとなっているわけでもありません。何とかして捕えようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです』(フィリピ 3:12)。

A・S